

## 【特別インタビュー】

### 第二期生：上垣内 隆文 医師

#### 上垣内先生のご経歴を簡単に教えてください

大阪府出身。高校時代まで大阪で過ごしました。中学校3年生の終わり頃に「将来は医師になろう」と思い、その中でも家庭医になりたいと思い医学部受験を決意しました。高校卒業後、奈良県立医科大学へ進学しました。大学在学中、産婦人科医になろうと思っておりましたが、医師になろうと思ったきっかけである家庭医療の道も忘れ難く、実際の家庭医療像もしっかりと見たく家庭医療の研修が盛んな三重県で初期研修を行う事となりました。

医師免許を取得してからは名張市立病院と三重大学附属病院、気仙沼市立本吉病院で合わせて2年間初期研修を行い、その後、三重大学家庭医療学講座の家庭医療専門研修プログラムで3年間後期研修を行いました。後期研修では、主に慢性～亜急性～急性期の内科、小児科、救急科、訪問診療等の研修を受けております。後期研修最終学年、三重県立一志病院に勤めておりましたが、へき地医療拠点病院でもあったため三重県の離島での代診業務として離島で一人診療することがしばしばありました。内科系や小児科ならまだ良いが、皮膚科・整形外科・外科系のプライマリケア領域の事がまだまだ自信を持てる状況ではないことをはっきりとさせられ、さらなる研鑽を積みたいと思いゲネプロに応募しました。

#### 研修病院として、益田医師会病院を選んだ理由は？

当初、内科系中心の後期研修であったため、外科系などにも強くなりたいと思い上五島病院の外科系コースを志望しておりました。

実際に、病院見学に行き、感触が非常によく上五島で研修しようとその時思っておりました。しかし、

後日、夏休みを使って妻・子供たちと一緒にもう一度上五島へ訪れましたが、道中の船旅で、家族全員船酔いがすごかったことなどから、上五島での生活が難しいかもしれないと思い上五島への勤務は断念せざる終えない状況でした。

そういった事を齋藤先生に相談していた所、「親父の背中プログラム」を勧められました。実際、11月末に医師会病院に見学に行った際の医師会会員の先生から、病院スタッフの皆様の熱量がすごく（会員の先生の診療所を少し見学する為に訪問した所、早速講義が始まるなど・・・）、事務方からは「病棟業務さえやってくれたら何でも好きに勉強してもいいですよ」と言ってもらえ、「よし、行こう」と思いました。特に開業医の先生が診療所のレベルで完結できている事を学べる事が非常に大きかったです。

#### 実際に働いてみて、病院の雰囲気はいかがですか？

非常に事務、コメディカルスタッフ、医師含めかなり雰囲気良く働かせてもらっております。また、病院だけでなく、今お世話になっている、会員の先生方も含め、常に相談等しやすい関係を築かせてもらっています。

#### 「親父の背中」プログラムの研修内容は？

「背中を見て、自分で勉強しろ！」っていうものではなく、ガツガツ講義も入ってきます。また、開業医の先生がメインですが、それ以外にも益田日赤病院での研修、保健所での研修も希望すればできます。

給与をもらっている医師会病院の勤務としては平均15人/day程度の入院患者の診療、会員の先生からの紹介外来（内科のみ）、急患対応、健康管理センターの人間ドッグ業務（胃カメラ、頸動脈・腹部エコー、結果説明）を行っております。週3コマ（1コマ半日）程、完全にDuty freeとなり、病院外での研修となります。今まで、私は、皮膚科クリニッ

ク、整形外科クリニック、耳鼻咽喉科クリニック、内科・小児科クリニックでの診療と産業保健、母子保健、病院小児科、保健所と多岐に渡り研修させてもらい、また今後泌尿器科研修も始まる予定です。色々研修しておりますが、ベースとしては皮膚科、整形外科、耳鼻科、内科・小児科となると思います。具体的には皮膚科では、皮膚科学の講義に始まり、粉瘤、脂漏性角化症、Bowen 病等の小外科研修。その後の病理組織の確認。皮膚科初診外来・継続外来など。整形外科では、よくある、腰痛、膝痛などの対応。それだけでなく、骨折整復、骨折固定、固定後のフォローなど。耳鼻咽喉科では、難聴、めまい、鼻出血、耳垢処置、経鼻ファイバーでの観察など。

様々勉強できますが、自分の希望をハッキリと事務長に伝えることによって実現できますので、「何を学びたいか」しっかりと持っているより充実した研修になると思います。

### 開業医の先生に学ぶことの魅力は、何ですか？

様々な設備があったり、各専門家が近くに居たりなど恵まれた状況である病院と違い、診療所レベルで「ここまでなら診れる」という範囲を学べるということでしょうか。

### 当初の想像と実際の研修生活に、ズレを感じますか？

まさに、想像通りでした。いや、想像以上に質の高い研修を積んでいます。一つ考えていなかったことは、同僚への教育でしょうか。

「親父の背中プログラム」1期生で私ともう一人初期研修医上がりの先生がいます。後期研修は常に屋根瓦式の教育体制だったので、そのままそのシステムを持ってきたといいますか、毎朝、病棟・外来患者の振り返りをしております。今後指導医になってゆくというキャリアを考えると、これも非常に良い経験となっております。あとは年に1-2度位だと思っておりますが、聖マリアンナ医科大学 救急科 藤谷茂

樹教授が益田に来られ臨床上の疑問をディスカッションする機会があります。総合内科をベースとした集中治療・救急の先生でもあることから、ここで、今までためていた珍しいと思われる内科症例、呼吸器管理症例など振り返ることもできかなり勉強になっております。

### どのような方にオススメするプログラムですか？

離島・僻地、プライマリケアを担当する予定で、診療所レベルで完結できる医療を幅広く勉強したいと考えている医師ですかね。

家庭医や病院総合医として研鑽を積んでおられる方にはもちろんお勧めできますし、専門内科・外科などで研鑽されておられる方で幅広くもう一度勉強してみたいといったかたにもいいかもしれません。

### 益田市という地域について、所感を教えてください

自然豊か。人が優しい。食事もおいしい。近くに空港があるので東京へは1時間半程で出られるので便利。ただ、都市（広島市）へ出るのに車で小二時間かかるのがやや不便。

近くに透明度の高い海水浴場があり、夏場は少しでも時間があれば家族で海水浴に出かけたりしました。スキー場も近くにあるようで、冬も楽しみです。

### 自身の今後の展望や目標について教えてください

この一年間は、幅広く臨床経験を積む。それにつきます。また、とにかく、目の前の患者さんが幸せになれるようにと思い日々診療しております。

1年限りの益田での研修ですが、その後の海外研修で海外の人口過疎地域での医療体制なども学び、日本に帰ってからは地域にでて臨床しつつ、地域を対象とした研究など少し academic な面も勉強してみたいと考えております。